

2016年3月期第2四半期決算実績と 今後の取り組み



2015年11月2日
西日本旅客鉄道株式会社

I. 2016年3月期 第2四半期決算実績	2
II. 2016年3月期 通期業績予想	11
III. 今後の取り組み	18
・ 3つのトピックスの取り組み	19
・ 各事業戦略の取り組み ～ 新幹線、近畿圏、事業創造 ～	25
・ 設備投資計画、株主還元	32

I . 2016年3月期 第2四半期決算実績

決算ハイライト

(単位: 億円)

	2015年3月期 2Q累計実績	2016年3月期 2Q累計実績	対前年		2015年3月期 通期実績	2016年3月期通期		対前年		対予想 増減
			増減	比率(%)		前回(7/30) 予想	今回(10/30) 予想	増減	比率(%)	
	A	B	B-A	B/A	C	D	E	E-C	E/C	E-D
【連 結】										
営業収益	6,515	7,094	+578	108.9	13,503	14,115	14,370	+866	106.4	+255
営業利益	821	1,105	+283	134.5	1,397	1,620	1,715	+317	122.7	+95
経常利益	724	997	+272	137.6	1,219	1,435	1,530	+310	125.4	+95
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	544	660	+116	121.3	667	905	960	+292	143.9	+55
【単 体】										
営業収益	4,407	4,787	+380	108.6	8,909	9,375	9,490	+580	106.5	+115
運輸収入	3,948	4,277	+328	108.3	7,970	8,360	8,470	+499	106.3	+110
営業費用	3,715	3,882	+167	104.5	7,789	8,080	8,140	+350	104.5	+60
人件費	1,169	1,152	▲ 17	98.5	2,330	2,330	2,330	▲ 0	100.0	—
物件費	1,662	1,783	+120	107.2	3,690	3,845	3,905	+214	105.8	+60
動力費	227	227	+0	100.1	453	470	465	+11	102.6	▲ 5
修繕費	620	657	+36	105.9	1,467	1,495	1,535	+67	104.6	+40
業務費	815	898	+83	110.2	1,769	1,880	1,905	+135	107.7	+25
減価償却費	611	631	+19	103.2	1,260	1,320	1,320	+59	104.7	—
営業利益	691	904	+212	130.7	1,120	1,295	1,350	+229	120.5	+55
経常利益	575	789	+213	137.1	921	1,110	1,165	+243	126.5	+55
四半期(当期)純利益	390	534	+144	136.9	473	725	760	+286	160.4	+35

単体損益計算書

(単位: 億円)

	2015年3月期 2Q累計実績 A	2016年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	4,407	4,787	+380	108.6
運輸収入	3,948	4,277	+328	108.3
その他収入	458	510	+51	111.3
営業費用	3,715	3,882	+167	104.5
人件費	1,169	1,152	▲ 17	98.5
物件費	1,662	1,783	+120	107.2
動力費	227	227	+0	100.1
修繕費	620	657	+36	105.9
業務費	815	898	+83	110.2
線路使用料等	92	134	+42	145.8
租税公課	178	181	+2	101.5
減価償却費	611	631	+19	103.2
営業利益	691	904	+212	130.7
営業外損益	▲ 116	▲ 115	+0	99.3
営業外収益	15	14	▲ 0	—
営業外費用	131	130	▲ 1	—
経常利益	575	789	+213	137.1
特別損益	▲ 27	7	+34	—
特別利益	37	58	+21	—
特別損失	64	51	▲ 13	—
四半期純利益	390	534	+144	136.9

運輸収入の主な増減要因

(単位: 億円)

		2016年3月期 2Q累計実績					
		運輸収入	対前年	主な増減要因			
新幹線		2,205	+359 (119.5%)	基礎トレンド(104.0%)		+73	
				特殊 要因	北陸新幹線開業	+240	
					曜日配列(シルバーウィーク)	+23	
					GWご利用増	+8	
					お盆期間ご利用増	+5	
					インバウンド	+1	
					シニアマーケット取り込み	+1	
					等		
在来線	近畿圏	1,519	+38 (102.6%)	基礎トレンド(101.2%)		+17	
				特殊 要因	インバウンド	+7	
					お盆期間ご利用増	+5	
					GWご利用増	+4	
					曜日配列(シルバーウィーク)	+2	
					等		
	その他	551	▲ 70 (88.7%)	基礎トレンド(100.8%)		+4	
				特殊 要因	並行在来線分離	▲ 87	
					曜日配列(シルバーウィーク)	+3	
					お盆期間ご利用増	+3	
					等		
	在来線計		2,071	▲ 31 (98.5%)			
	運輸収入計		4,277	+328 (108.3%)			

※荷物収入は金額些少のため省略

運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位: 億円)

輸送人キロ

(単位: 百万人キロ)

	2Q累計実績(4/1～9/30)			2Q実績(7/1～9/30)		
	2015年 3月期	2016年 3月期	対前年	2015年 3月期	2016年 3月期	対前年
全社計	3,948	4,277	+328 108.3%	2,040	2,218	+178 108.8%
新幹線	1,846	2,205	+359 119.5%	962	1,162	+199 120.8%
定期	46	50	+4 109.2%	22	25	+2 111.0%
定期外	1,799	2,154	+355 119.7%	939	1,137	+197 121.0%
在来線	2,102	2,071	▲ 31 98.5%	1,077	1,056	▲ 21 98.0%
定期	724	717	▲ 7 99.0%	359	356	▲ 3 99.2%
定期外	1,378	1,354	▲ 24 98.2%	717	699	▲ 18 97.4%
近畿圏	1,480	1,519	+38 102.6%	749	766	+17 102.3%
定期	584	587	+2 100.4%	291	292	+0 100.3%
定期外	896	932	+36 104.1%	457	474	+16 103.6%
その他	621	551	▲ 70 88.7%	328	289	▲ 38 88.2%
定期	139	130	▲ 9 93.2%	68	64	▲ 3 94.5%
定期外	482	421	▲ 60 87.4%	259	224	▲ 34 86.6%

	2Q累計実績(4/1～9/30)			2Q実績(7/1～9/30)		
	2015年 3月期	2016年 3月期	対前年	2015年 3月期	2016年 3月期	対前年
全社計	28,027	29,526	+1,499 105.3%	14,343	15,149	+805 105.6%
新幹線	8,885	10,256	+1,371 115.4%	4,680	5,439	+758 116.2%
定期	371	409	+37 110.1%	191	202	+10 105.5%
定期外	8,513	9,846	+1,333 115.7%	4,488	5,236	+748 116.7%
在来線	19,142	19,270	+128 100.7%	9,663	9,709	+46 100.5%
定期	11,551	11,746	+195 101.7%	5,643	5,759	+116 102.1%
定期外	7,590	7,523	▲ 66 99.1%	4,020	3,950	▲ 69 98.3%
近畿圏	14,519	15,017	+497 103.4%	7,268	7,513	+244 103.4%
定期	9,360	9,625	+265 102.8%	4,587	4,726	+138 103.0%
定期外	5,159	5,391	+232 104.5%	2,681	2,786	+105 103.9%
その他	4,622	4,252	▲ 369 92.0%	2,394	2,196	▲ 197 91.7%
定期	2,191	2,120	▲ 70 96.8%	1,055	1,033	▲ 22 97.9%
定期外	2,431	2,132	▲ 299 87.7%	1,338	1,163	▲ 175 86.9%

単体営業費用の主な増減要因

(単位: 億円)

科目	2016年3月期 2Q累計実績		
		対前年	主な増減要因
人件費	1,152	▲ 17 (98.5%)	・退職手当減▲5 等
動力費	227	+0 (100.1%)	
修繕費	657	+36 (105.9%)	・撤去工事費増+13 ・構造物対策経費増+9 等
業務費	898	+83 (110.2%)	・会社間清算増+34 ・広告宣伝費増+11 ・発売手数料増+7 等
線路使用料等	134	+42 (145.8%)	・北陸新幹線
租税公課	181	+2 (101.5%)	
減価償却費	631	+19 (103.2%)	・北陸新幹線用車両 等
営業費用計	3,882	+167 (104.5%)	

連結損益計算書

(単位: 億円)

	2015年3月期 2Q累計実績 A	2016年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	6,515	7,094	+578	108.9
営業費用	5,693	5,988	+294	105.2
営業利益	821	1,105	+283	134.5
営業外損益	▲ 97	▲ 108	▲ 11	111.5
営業外収益	37	23	▲ 13	—
営業外費用	134	131	▲ 2	—
経常利益	724	997	+272	137.6
特別損益	31	5	▲ 26	—
特別利益	109	66	▲ 42	—
特別損失	77	61	▲ 16	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	544	660	+116	121.3
四半期包括利益	555	676	+120	121.7

セグメント情報

(単位: 億円)

	2015年3月期 2Q累計実績 A	2016年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益*1	6,515	7,094	+578	108.9
運輸業	4,293	4,661	+368	108.6
流通業	1,113	1,142	+29	102.7
物販・飲食	659	722	+62	109.5
百貨店	411	380	▲ 30	92.5
不動産業	429	533	+104	124.3
ショッピングセンター	249	283	+34	113.7
不動産賃貸・販売*3	171	241	+69	140.9
【分譲事業】	【27】	【94】	+66	347.5
その他	680	756	+76	111.2
ホテル	167	177	+10	106.0
旅行	195	188	▲ 7	96.4
営業利益*2	821	1,105	+283	134.5
運輸業	631	842	+211	133.5
流通業	19	30	+11	159.4
物販・飲食	27	29	+2	110.0
百貨店	▲ 9	▲ 0	+9	-
不動産業	140	176	+36	126.0
ショッピングセンター	38	47	+9	124.7
不動産賃貸・販売	50	73	+22	145.8
その他	22	50	+27	222.1
ホテル	8	13	+5	166.1
旅行	▲ 2	▲ 4	▲ 1	-

*1 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*2 営業利益の各セグメントの内訳は、主な子会社の営業利益の単純合算値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

*3 【 】は分譲売上(外部売上高)(再掲)です。

連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位: 億円)

	2015年3月期 期末 A	2016年3月期 2Q期末 B	増減 B-A
資産	27,864	27,796	▲68
負債	19,397	18,777	▲620
純資産	8,467	9,019	+552
長期債務残高	10,042	10,206	+164
【長期債務平均金利(%)】	【2.40】	【2.33】	【▲0.07】
新幹線債務	1,676	1,525	▲151
【新幹線債務平均金利(%)】	【6.05】	【6.14】	【+0.09】
社債	4,799	4,949	+150
【社債平均金利(%)】	【2.08】	【2.05】	【▲0.03】
自己資本比率	28.8	30.8	+2.0
1株当たり純資産(円)	4,138.65	4,417.99	+279.34

	2015年3月期 2Q累計実績 A	2016年3月期 2Q累計実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	617	882	+264
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 779	▲ 766	+13
フリーキャッシュフロー	▲ 161	116	+277
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 101	32	+133
現金及び現金同等物の増減	▲ 263	148	+411
現金及び現金同等物の期末残高	466	1,001	+535

Ⅱ．2016年3月期 通期業績予想

単体業績予想

(単位: 億円)

	2015年3月期 通期実績 A	2016年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	8,909	9,375	9,490	+580	106.5	+115
運輸収入	7,970	8,360	8,470	+499	106.3	+110
その他収入	939	1,015	1,020	+80	108.6	+5
営業費用	7,789	8,080	8,140	+350	104.5	+60
人件費	2,330	2,330	2,330	▲ 0	100.0	—
物件費	3,690	3,845	3,905	+214	105.8	+60
動力費	453	470	465	+11	102.6	▲ 5
修繕費	1,467	1,495	1,535	+67	104.6	+40
業務費	1,769	1,880	1,905	+135	107.7	+25
線路使用料等	187	265	265	+77	141.1	—
租税公課	320	320	320	▲ 0	100.0	—
減価償却費	1,260	1,320	1,320	+59	104.7	—
営業利益	1,120	1,295	1,350	+229	120.5	+55
営業外損益	▲ 198	▲ 185	▲ 185	+13	93.0	—
営業外収益	65	66	66	+0	—	—
営業外費用	264	251	251	▲ 13	—	—
経常利益	921	1,110	1,165	+243	126.5	+55
特別損益	▲ 45	▲ 30	▲ 30	+15	—	—
特別利益	606	—	—	—	—	—
特別損失	651	—	—	—	—	—
当期純利益	473	725	760	+286	160.4	+35

運輸収入の見通し

(単位: 億円)

		2015年3月期 通期実績 A	2016年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
			前回(7/30) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
新幹線		3,759	4,249	4,346	+587	115.6	+97
在来線	近畿圏	2,962	3,007	3,019	+56	101.9	+12
	その他	1,248	1,103	1,104	▲ 144	88.5	+0
	在来線計	4,210	4,110	4,123	▲ 87	97.9	+12
運輸収入計		7,970	8,360	8,470	+499	106.3	+110

※ 荷物収入は金額些少のため省略

単体営業費用の見通し

(単位:億円)

科目	2016年3月期 通期見通し			
		対前年	主な対前年増減要因	対前回
人件費	2,330	▲ 0 (100.0%)		—
動力費	465	+11 (102.6%)	・電力料金値上げ・再エネ賦課金増 等	▲ 5
修繕費	1,535	+67 (104.6%)	・構造物対策経費増 等	+40
業務費	1,905	+135 (107.7%)	・会社間清算増 ・広告宣伝費増 ・電力料金値上げ・再エネ賦課金増 等	+25
線路使用料等	265	+77 (141.1%)	・北陸新幹線	—
租税公課	320	▲ 0 (100.0%)		—
減価償却費	1,320	+59 (104.7%)	・北陸新幹線用車両 等	—
営業費用計	8,140	+350 (104.5%)		+60

連結業績予想

(単位: 億円)

	2015年3月期 通期実績 A	2016年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	13,503	14,115	14,370	+866	106.4	+255
営業費用	12,105	12,495	12,655	+549	104.5	+160
営業利益	1,397	1,620	1,715	+317	122.7	+95
営業外損益	▲ 177	▲ 185	▲ 185	▲ 7	104.1	—
営業外収益	90	76	76	▲ 14	—	—
営業外費用	268	261	261	▲ 7	—	—
経常利益	1,219	1,435	1,530	+310	125.4	+95
特別損益	7	▲ 55	▲ 55	▲ 62	—	—
特別利益	695	—	—	—	—	—
特別損失	687	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	667	905	960	+292	143.9	+55
1株当たり当期純利益(円)	344.58	467.45	495.85	—	—	—

連結業績予想(セグメント別)

(単位: 億円)

	2015年3月期 通期実績 A	2016年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/30) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益 ^{*1}	13,503	14,115	14,370	+866	106.4	+255
運輸業	8,684	9,136	9,251	+566	106.5	+115
流通業	2,201	2,290	2,310	+108	104.9	+20
物販・飲食	1,336	1,412	1,432	+95	107.2	+20
百貨店	782	802	802	+19	102.5	—
不動産業	872	1,026	1,066	+193	122.2	+40
ショッピングセンター	506	562	572	+65	112.9	+10
不動産賃貸・販売 ^{*2}	347	447	477	+129	137.1	+30
【分譲事業】	【58】	【153】	【184】	+125	315.7	+30
その他	1,744	1,663	1,743	▲ 1	99.9	+80
ホテル	348	353	358	+9	102.6	+5
旅行	425	429	414	▲ 11	97.4	▲ 15
営業利益	1,397	1,620	1,715	+317	122.7	+95
運輸業	1,006	1,163	1,218	+211	121.0	+55
流通業	15	46	51	+35	319.2	+5
不動産業	251	303	318	+66	126.2	+15
その他	156	140	160	+3	102.3	+20

^{*1} 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。

内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

^{*2} 【 】は分譲売上(外部売上高)(再掲)です。

諸元表

(単位: 人、億円)

	2015年3月期 2Q累計実績	2016年3月期 2Q累計実績	2015年3月期 通期実績	2016年3月期 通期予想(10/30)
連結ROA (%)	3.1	4.0	5.1	6.1
連結ROE (%)	6.9	8.0	8.4	11.5
連結EBITDA ^{*1}	1,544	1,854	2,893	3,300
連結減価償却費	722	748	1,495	1,585
連結設備投資(自己資金)	737	792	2,256	2,310
単体設備投資(自己資金)	583	675	1,864	1,990
安全関連投資	224	445	902	1,230
1株当たり配当金(円)	60	65	125	135

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

	2015年3月期 2Q累計実績		2016年3月期 2Q累計実績		2015年3月期 通期実績		2016年3月期 通期予想(10/30)	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数(就業人員)	48,203	27,362	47,750	26,616	47,565	26,886	—	—
金融収支	▲ 125	▲ 121	▲ 119	▲ 113	▲ 249	▲ 243	▲ 240	▲ 231
受取利息・配当金	5	9	3	9	9	14	6	13
支払利息	130	130	123	123	258	257	246	245

Ⅲ. 今後の取り組み

3つのトピックスの取り組み

3つのトピックス ①北陸新幹線と北陸エリアの活性化(1)

上期の取り組み

○ 競争力向上

- ・フリークエンシー向上
- ・移動時間短縮
- ・利便性の高いインターネット予約サービス

○ 観光需要喚起

- ・広域観光ルートの設定(周遊バス運行等)

○ 積極的なプロモーション展開

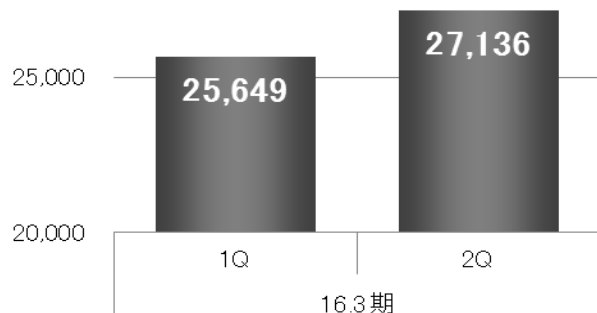
- ・運行本数・所要時間等、基本情報の発信
- ・「北陸カレッジ」等による観光素材発掘・発信

⇒ パイ、シェアともに増加

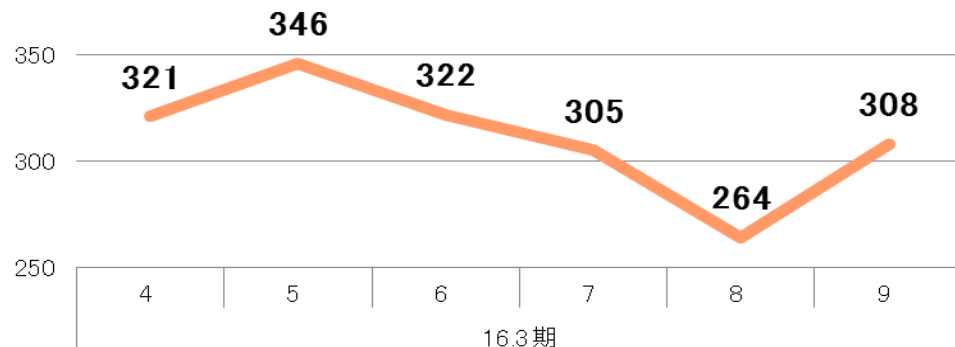


ご利用動向の推移 (断面輸送量[上越妙高～糸魚川間])

○ ご利用者数 (単位:人/日)



○ 対前年比 (単位:%)



開業時の盛り上がりに加えて当社の積極的な宣伝も奏功し、開業効果最大化

3つのトピックス ①北陸新幹線と北陸エリアの活性化(2)

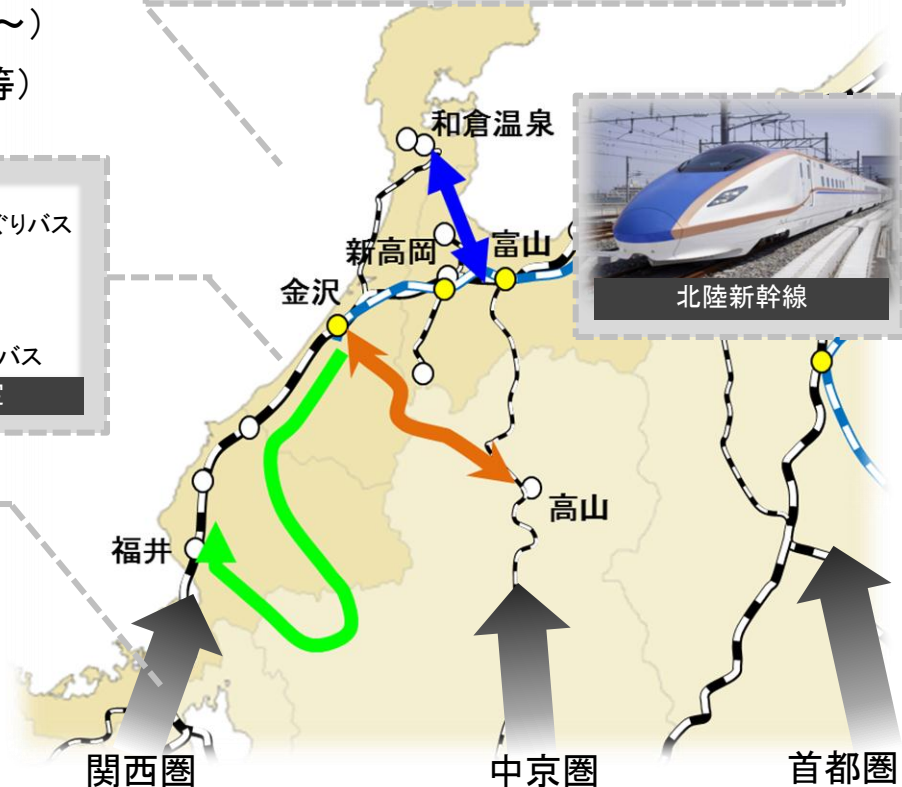
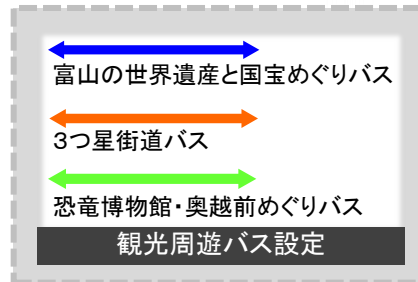
今後の取り組み

○ 競争力の向上によるシェア拡大

- ・ 利便性の高いインターネット予約サービスのご利用拡大
 - － e5489「北陸新幹線早朝出張応援」キャンペーン実施

○ 観光需要の拡大によるパイ拡大

- ・ DCを契機とした観光需要喚起
 - － 観光列車「花嫁のれん」「べるもんた」運行(2015.10～)
 - － 二次アクセス整備(金沢～高山間の観光周遊バス等)
 - － 旅行商品設定 等



○ 北陸エリアでの事業創造と地域共生の推進

- ・ オープン、リニューアルした商業施設の開業効果最大化
 - － 会員限定セール実施等による地元顧客への訴求

3つのトピックス ②新生「LUCUA osaka」

上期の取り組み

○ ノースゲートビルディング西館をLUCUA1100として再生

- ・ ルクア1100グランドオープン（4/2）
- ・ 注目ショップの段階的オープン
 - － ウルフギャング・ステーキハウス（4/27）
 - － 梅田蔦屋書店（5/8）

○ 継続した新規テナント誘致

- ・ LUCUA（東館）に4店舗、LUCUA1100（西館）に1店舗、計5店舗新規オープン（8/26）
- ・ LUCUA（東館）の1店舗移転・拡大オープン（9/14）



上期実績

開業初年度目標

- ① テナント売上高 対前年約3割増
- ② 入館者数 対前年約4割増

- ① テナント売上高 770億円
- ② 入館者数 7,000万人

東西一体での運営効果により実績は計画線上で推移も、継続してチューニングを実施

今後の取り組み

○ 利用状況に応じたチューニング

- ・ フロア毎、店舗毎の状況を踏まえた継続的なMD（マーチャンダイズ）強化

○ プロモーション展開

- ・ ポイントアップデー、初売りセール等、効果的なタイミングでTVCMや広告等の大規模プロモーション実施

3つのトピックス ③訪日観光客需要の獲得(1)

上期の取り組み

○ 西日本観光ルート of 整備

- ・北陸新幹線開業・山陽新幹線40周年を契機とした北陸・中国方面の商品充実(2015.3～)

○ 受入態勢整備

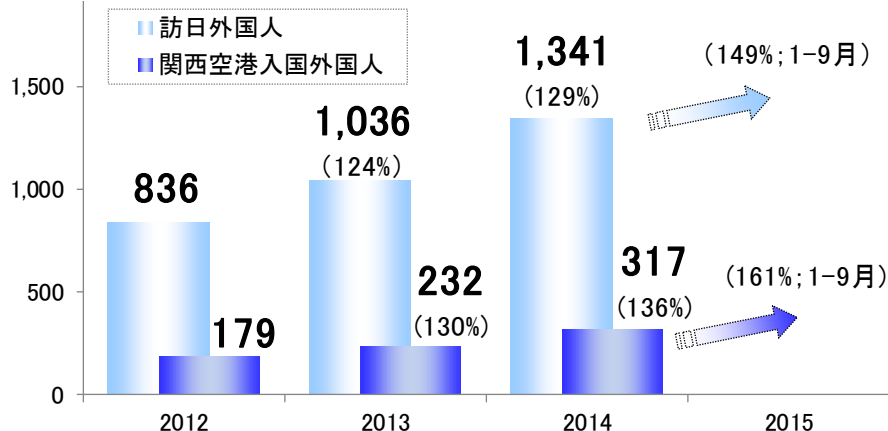
- ・広島駅での手ぶら観光サービス(2015.4～)

○ プロモーション実施

- ・シンガポール事務所開設(2015.7)による東南アジアでの西日本エリアの魅力発信

▼訪日外国人数、関空入国外国人数推移(暦年)

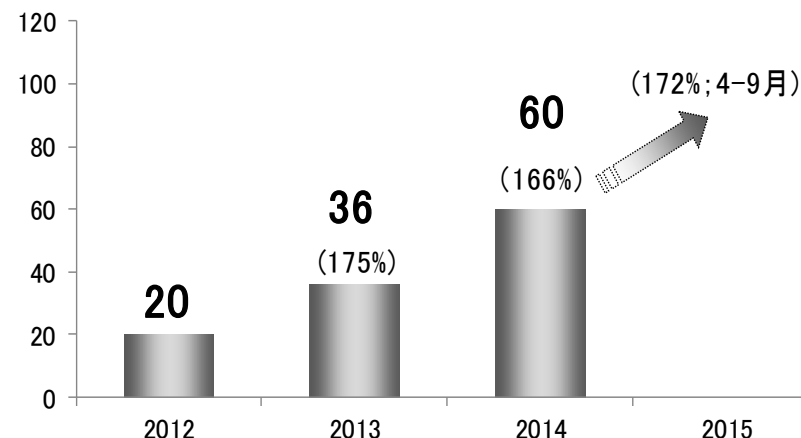
単位: 万人 ()内は対前年比



[出典] 日本政府観光局(JNTO)、法務省入国管理局

▼訪日観光客ご利用者数(※)推移(年度)

単位: 万人 ()内は対前年比



上期実績

2017年度目標 (2012年度との比較)

- ① 訪日観光客ご利用者数(※) 45万人
- ② 連結営業収益 +57億円 (対2012年度)

- ① 訪日観光客ご利用者数(※) 5倍増 100万人
- ② 連結営業収益 +100億円

当社利用者数は訪日外国人数や関空入国者数を上回る伸び率も、更なる獲得余地あり

3つのトピックス ③訪日観光客需要の獲得(2)

「西日本エリア」への誘客拡大、近畿エリアでの「JR西日本グループ」の利用拡大に向けた今後の取り組み

○ 地域との連携、商品の拡充等による広域観光ルートの開発・整備

- ・ 新たに設定した「西遊紀行」瀬戸内エリアパス(2015.7～)の販売促進等

○ ターミナル駅・商業施設等の受入態勢充実等(案内、無料公衆無線LAN、宅配、免税等)

- ・ 大阪駅に訪日外国人向けサービスセンター(荷物宅配サービス、ATM等)を設置(2015.10～)
- ・ 観光バス需要への対応迅速化に向け、貸切バス専門子会社設立(2016年初運行開始予定)
- ・ 宿泊特化型ホテルの展開拡大(天王寺2017春予定、梅田2017夏予定)
- ・ 訪日観光客にも人気のテナントを駅ナカに誘致(大阪駅「エキドンキ」2015.10)

○ グループ全体やターミナル駅周辺も含めた「まち」の魅力のプロモーション強化

- ・ JR西日本グループ全体の利用拡大を企図し、共同プロモーション実施



訪日観光客向け商品拡充、
各空港から西日本エリアへのご利用拡大



訪日外国人向けサービスセンター設置



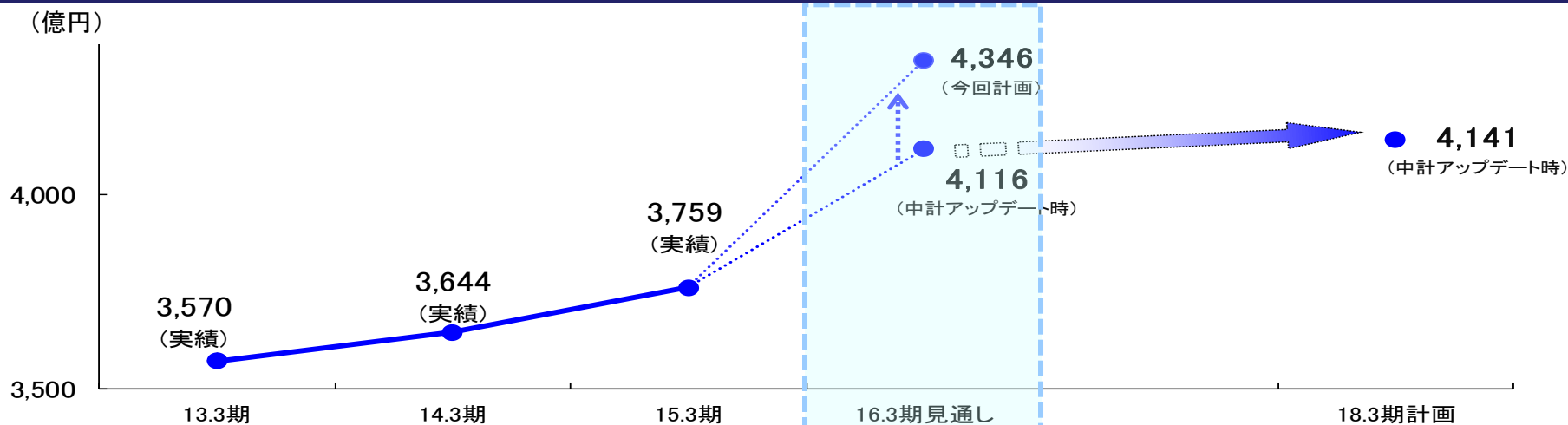
グループ共同プロモーション

各事業戦略における取り組み

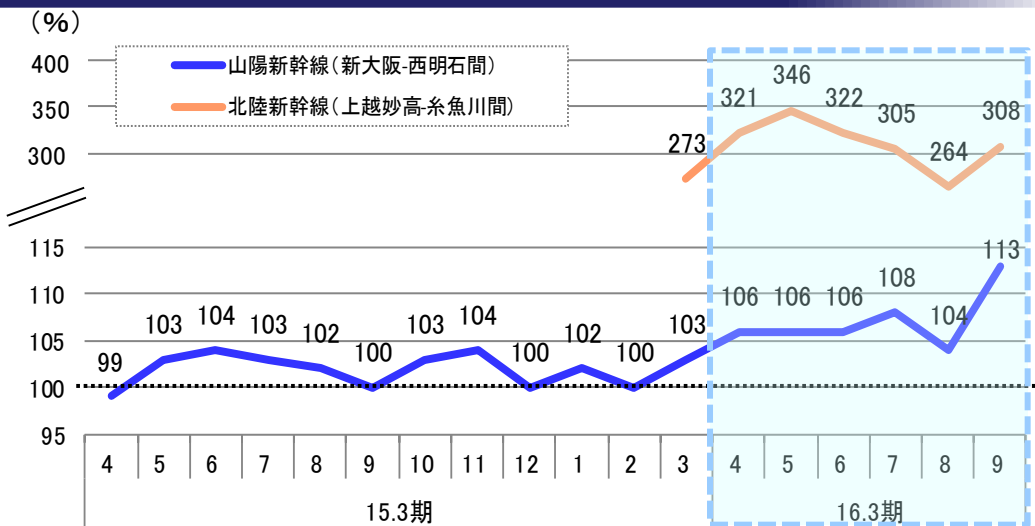
～ 新幹線、近畿圏、事業創造 ～

事業戦略：新幹線①

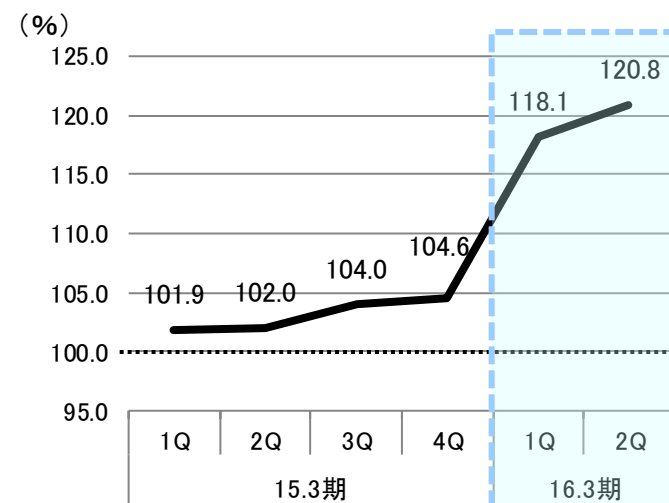
運輸収入の推移



月次ご利用動向 (断面輸送量対前年比)



四半期別運輸収入 (対前年比)



良好な経済情勢に加えてネット予約の利用拡大施策等が奏功、ビジネス・観光ともに好調

今後の取り組み

競争力の向上

○ 安全性・快適性・利便性向上

- ・ 安全性・快適性を高めた新型車両投入
 - － 山陽新幹線にN700Aを4編成投入(2016.3期)
- ・ 携帯電話不感地対策の推進
 - － 小倉-博多間(2015年内)

【来期以降の主な取り組み】

- ・ 山陽新幹線にN700Aを更に4編成投入(2017.3期)
- ・ 携帯電話不感地対策(新山口～小倉間)推進

○ Webによるマーケティング強化

- ・ インターネット予約の利用促進
 - － 山陽～首都圏出張応援キャンペーン 等

○ 駅・駅ナカの利便性・魅力向上

- ・ エキマルシェ新大阪(2015.12全面開業)



山陽新幹線N700A



「エキマルシェ新大阪」

観光需要の喚起

○ シニア世代に対する観光需要の喚起

- ・ シニア向け会員組織「おとなび」会員拡大
 - － 会員専用商品の充実 等

○ 訪日観光客需要の獲得 (→トピックス③)

○ 観光キャンペーン

- ・ 山陽新幹線全線開業40周年キャンペーン
 - － 「500 TYPE EVA」の運行(2015.11～)
 - － 旅行商品の設定
- ・ DC(デスティネーションキャンペーン)
 - － 北陸DC(2015秋) (→トピックス①)
 - － 岡山DC開催を契機とした地域の魅力発掘・発信

【来期以降に当社エリアで開催されるDC】

- ・ 岡山DC (2016春)
- ・ 山口DC (2017秋)

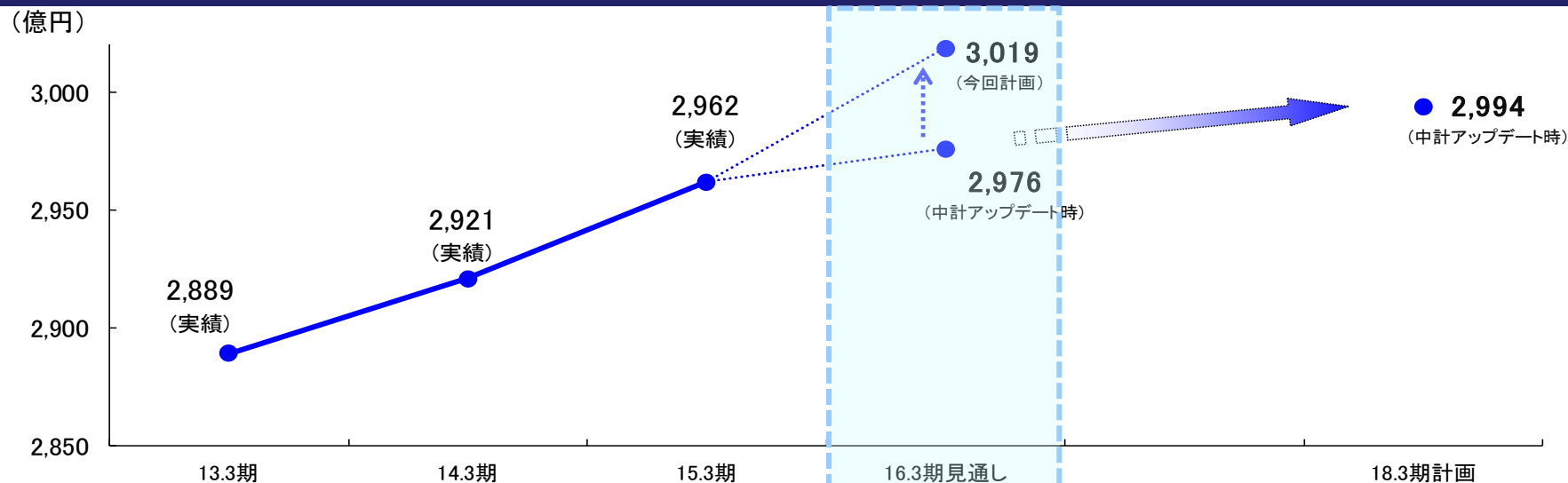


500 TYPE EVA

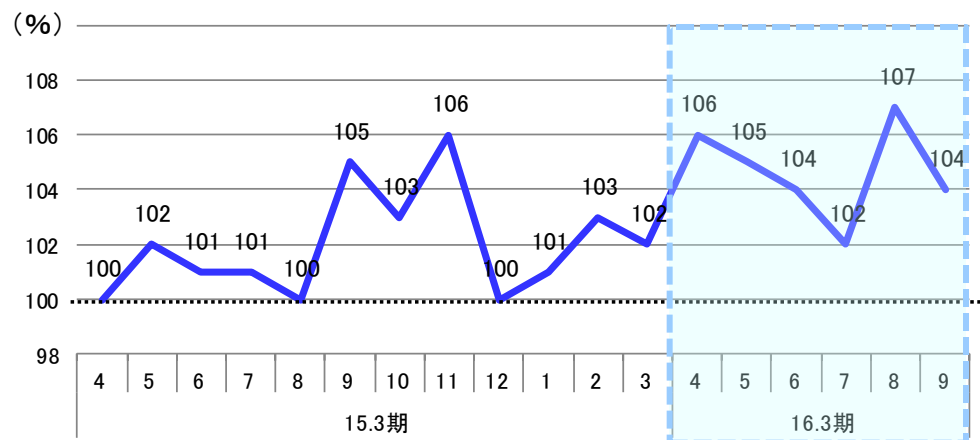


岡山駅改札内の特設店舗

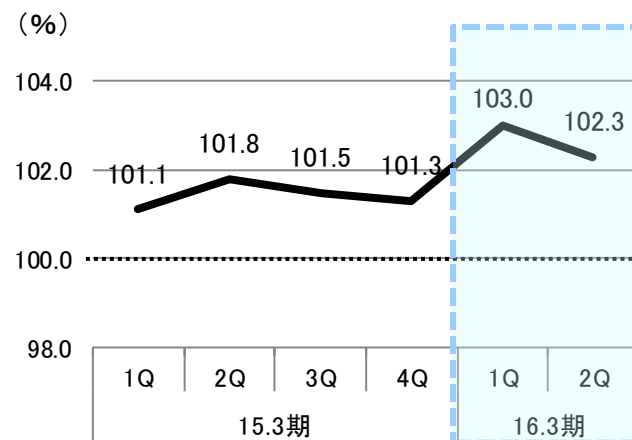
運輸収入の推移



月次ご利用動向 (近距離発売枚数対前年比)



四半期別運輸収入 (対前年比)



沿線の観光施設等開業に加え、当社の線区価値向上施策が奏功し、堅調に推移

今後の取り組み

線区価値向上

○ 住みたくなるご利用しやすい沿線づくり

・ 新駅設置

- － 摩耶、東姫路(2016春)

【来期以降の新駅設置予定(駅名は仮称)】

- － JR総持寺、衣摺(2018春)、JR七条(2019春)

・ 駅と駅周辺の利便性・魅力向上

- － 立命館大学新キャンパス開設を契機とした茨木駅改良(2015.3～リニューアル開始)
- － 駅・駅ナカのリニューアル推進(新大阪等)

○ 大阪環状線改造プロジェクトの展開

・ 駅リニューアル、駅ナカ開発推進

- － 森ノ宮駅(2015.5完了)に次いで桃谷駅リニューアル開始(2016夏完了予定)

【来期以降の主な取り組み】

- ・ 新車168両導入(2017.3期～19.3期)

○ よりシームレスな移動の提供

・ ICOCAエリア拡大

- － 和歌山エリア拡大(2015.8)に次いで兵庫エリア拡大(2016.3予定)

都市型観光推進

○ 沿線観光施設等と連携したご利用拡大

- ・ “平成の大修理”を終えた姫路城
- ・ 大阪ステーションシティ(LUCUA osaka)等

○ 京都鉄道博物館の開業準備推進

- ・ 地域と連携した京都梅小路エリアの活性化

○ 訪日観光客需要の獲得 (→トピックス③)



新駅「摩耶」

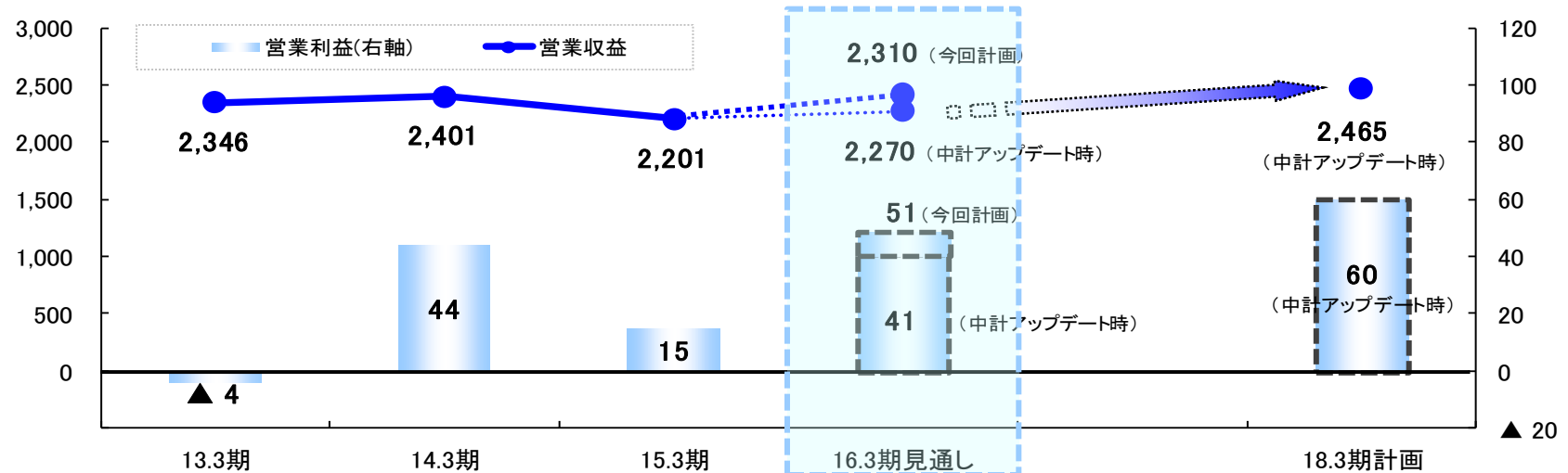


桃谷駅リニューアル

事業戦略：事業創造①（流通業・不動産業）

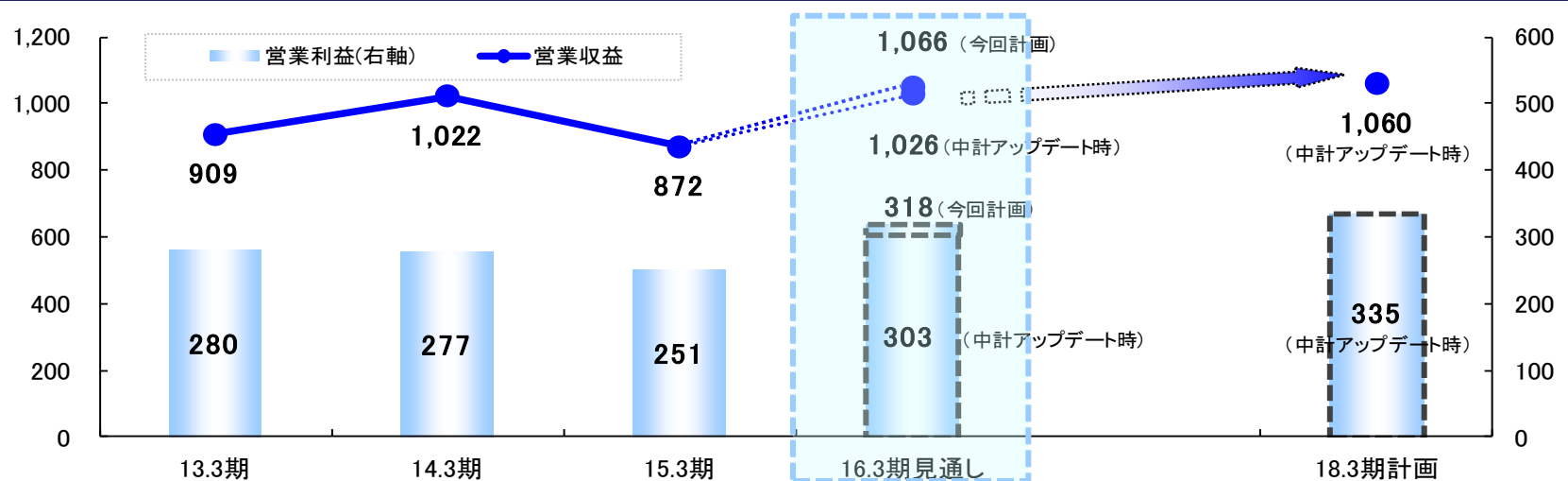
流通業の推移

（単位：億円）



不動産業の推移

（単位：億円）



鉄道ご利用増、リニューアル開業やセブン-イレブンとの提携効果等により堅調

今後の取り組み

商品・サービス・運営力強化による質的向上

○ セブン-イレブン・ジャパンとの提携店舗への転換推進、効果最大化

- ・ 5年間で約500店舗
- ・ 2016.3期末までに約190店舗完了予定、9月末までに110店舗完了
⇒ 転換前と比較した売上は5割増(2015.9)

○ 商業施設の開発・リニューアルと開業効果最大化

- ・ 流通業
 - － 「エキマルシェ新大阪」(2015.12全面開業予定)
 - － 大阪駅「エキドンキ」(2015.10)
- ・ SC業
 - － 「LUCUA osaka」(→トピックス②)
 - － 金沢駅「あん」と、富山駅「とやマルシェ」等(→トピックス①)
 - － 明石駅SCリニューアル「piole明石」(2016.2予定)



「エキマルシェ新大阪」



大阪駅「エキドンキ」

強みのある事業の市中への積極展開

○ 宿泊特化型ホテル

- ・ 現在、17ホテルを展開中
(首都圏5、中京圏1、西日本エリア11)
- ・ 今後、未出店であったエリアへの出店推進
 - － 天王寺(2017春予定)
 - － 梅田(2017夏予定)

○ SC業

- ・ 吹田市の社宅跡地にSCを開発(2016春予定)

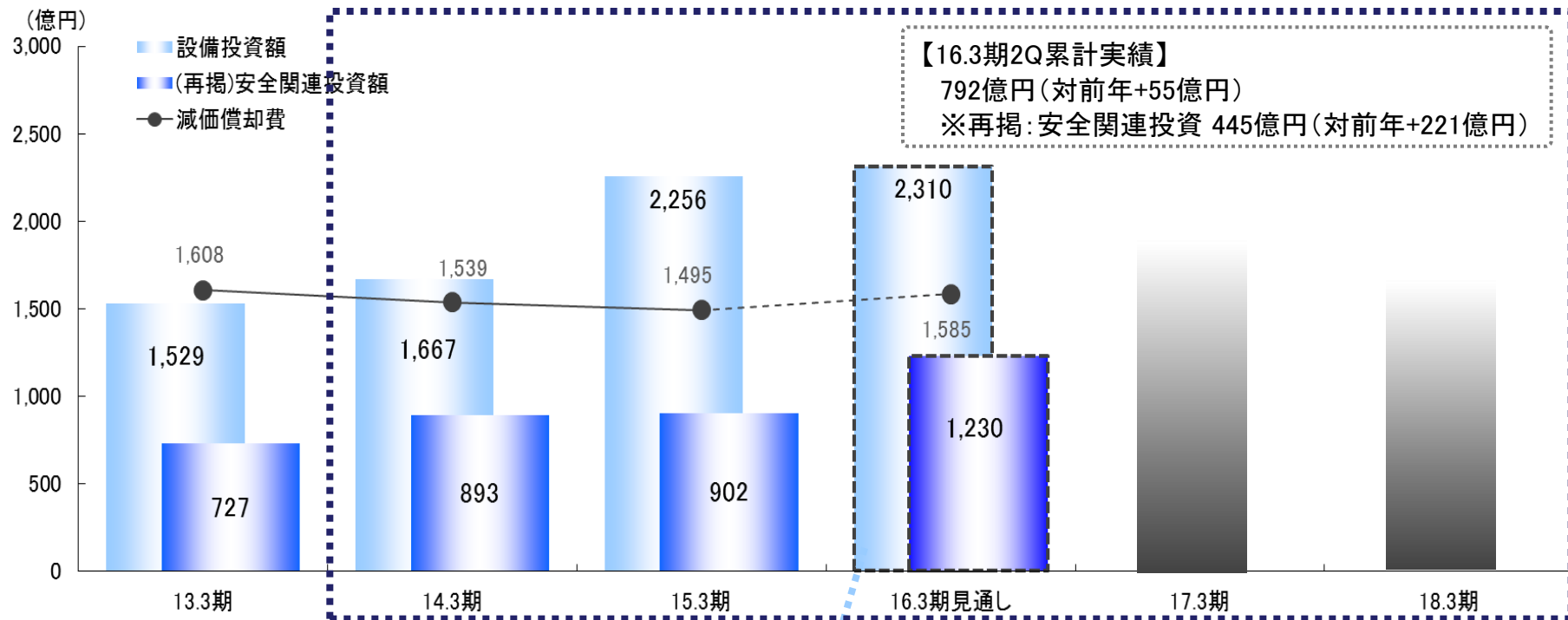
○ 物販・飲食業

- ・ からふね屋珈琲の株式取得(2015.8)
⇒ 市中展開のコンテンツとして活用



吹田市 社宅跡地 SC

設備投資計画、株主還元



中計期間(14.3-18.3期)設備投資総額

(単位:億円)

	前回計画	今回計画
連結	9,200	9,600
(再掲)成長投資	2,300	2,600
単体	8,000	8,200
(再掲)安全関連投資	4,700	4,800

16.3期の主な設備投資案件

○ 成長投資

- ・ 北陸新幹線関係
(W7系車両1編成投入)
- ・ 新駅設置工事
- ・ 生活関連サービス事業拡大
(セブン-イレブン・ジャパンとの提携等)

○ 事業の継続的運営に必要な投資

安全関連投資

- ・ 新幹線N700A投入
- ・ 在来線車両取替
- ・ 地震・津波対策
- ・ 山陽新幹線ATC取替
- ・ バリアフリー、駅改良等

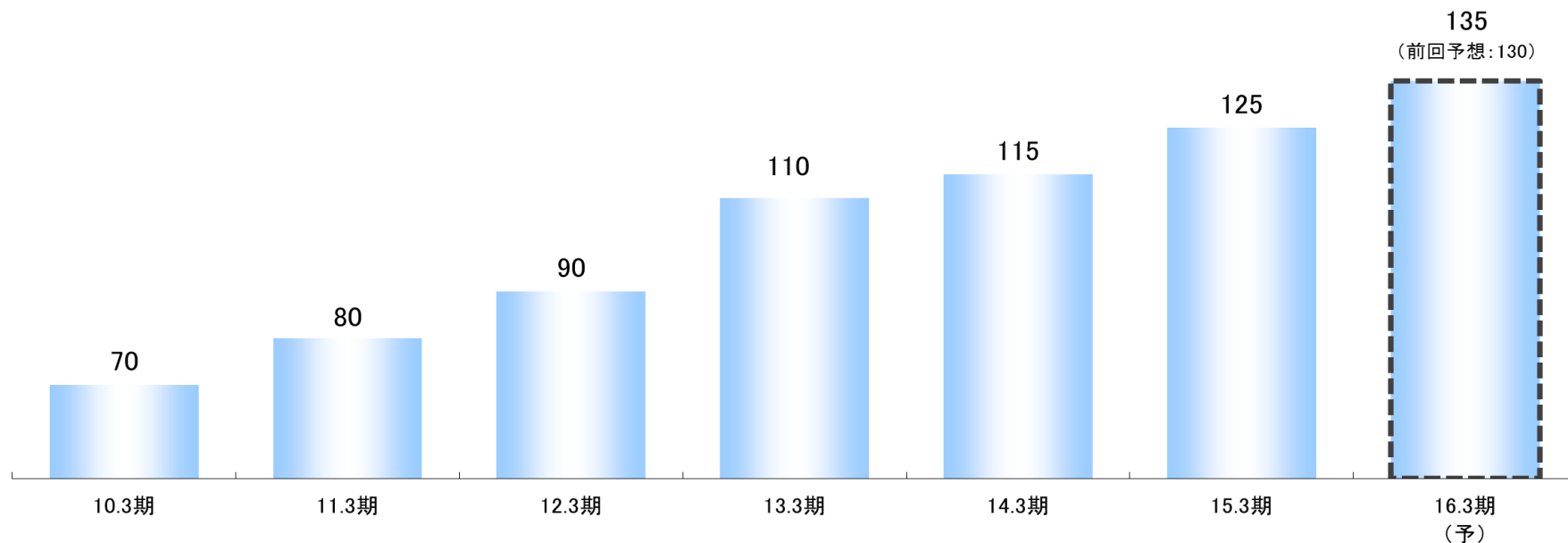
株主還元方針

- 長期安定的な株主還元を重視する観点から、引き続き、自己資本を勘案した株主還元を実施。
- 具体的には、本計画の達成状況を踏まえ、

2018年3月期に、連結ベースでの「自己資本総還元率(※)」3%程度を目指す。

※自己資本総還元率(%) = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 連結自己資本 × 100

1株当たり年間配当額の推移 (単位/円)



6期連続増配(予想含む)。業績が着実に推移する見通しを踏まえ、配当予想を5円増額。

業績見通し

	2015年3月期	2016年3月期			2018年3月期
	実績	中計アップデート (2015年4月時点)	前回計画 (2015年7月時点)	今回計画 (2015年10月時点)	中計アップデート (2015年4月時点)
営業収益	13,503	13,915	14,115	14,370	14,230
運輸業	8,684	8,956	9,136	9,251	9,025
流通業	2,201	2,270	2,290	2,310	2,465
不動産業	872	1,026	1,026	1,066	1,060
その他	1,744	1,663	1,663	1,743	1,680
営業利益	1,397	1,485	1,620	1,715	1,570
運輸業	1,006	1,033	1,163	1,218	1,050
流通業	15	41	46	51	60
不動産業	251	303	303	318	335
その他	156	140	140	160	140
経常利益	1,219	1,300	1,435	1,530	1,410
当期純利益	667	815	905	960	915
運輸収入	7,970	8,180	8,360	8,470	8,205
ROA	5.1%	5.3%	5.8%	6.1%	5.5%
ROE	8.4%	9.8%	10.9%	11.5%	9.8%
EBITDA	2,893	3,070	3,205	3,300	3,255

(注)・営業収益は外部顧客に対する売上高

・セグメント別営業利益はセグメント間消去前

・運輸収入は運輸業のうちJR西日本の鉄道事業の旅客運輸収入

将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとしうる重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2015年11月2日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2015年11月2日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <http://www.westjr.co.jp/company/ir/>